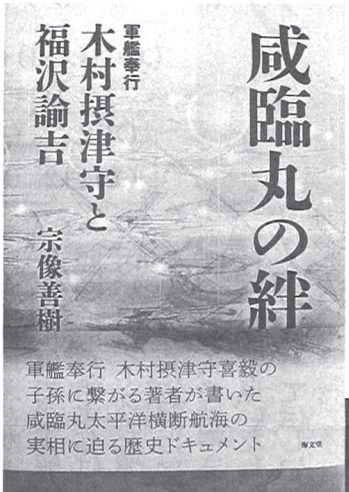


木村撰津守と福沢諭吉 絆を描く



さいたま市の
宗像さん出版
航海の実相に迫る



宗像善樹さん

江戸幕府の軍艦「咸臨丸」が米サンフランシスコに渡って百五十四年。「咸臨丸子孫の会」会員で、さいたま市浦和区の宗像善樹さん(モコ)が「咸臨丸の絆 軍艦奉行木村撰津守と福沢諭吉」と題する本を出版した。写真。

宗像さんによると、福沢諭吉は木村撰津守喜毅に願い出て咸臨丸に乗船、米国に渡れたことから、喜毅を「木村様」と報恩の念を持ち続けた。

そして喜毅は四歳年下の諭吉の能力を認め「先生」と敬い、終生深い関係が続いた。本書には、あまり知られていない二人だけのやりとりも盛り込まれており、興味深い。「咸臨丸」の太平洋横断航海の実相に迫る歴史ドキュメントともいえる。

「咸臨丸、アメリカへ往く」の一章では渡米の経過と準備、諭吉の乗船実現、サンフランシスコにて。二章は咸臨丸のハワイ寄港など。三章は喜毅と諭吉の最後の会話などが触れられている。

「咸臨丸の絆」(海文堂)は定価千六百円(税別)。(長竹孝夫)